

# 「明日も来たくなる学校」



**殿** 田小学校は、「明日も来たくなる学校」を目指して、人権教育を育てたり、相手のことを思いやる心を豊かにしたりするため、人権旬間をはじめとしたさまざまな取り組みをしています。

**そ** の取り組みの一つが、異年齢集団「かがやき班」での活動です。4月、1年生が入学するとすぐに、かがやき班開きがあります。チャームに合わせた生活が始まり、慣れないことも多い1年生を上級生は温かく迎えます。毎日の掃除もこの班で取り組み、1年生は学校生活の過ごし方の一つ一つ覚えていきます。そして、4月末に行う全校ハイキングでは、広い場所で低学年も楽しめるおにごっこやドッジボールなどさまざまな遊びを高学年が企画し、楽しく遊ぶ中で、ぐっと絆を深めます。

**そ** のかがやき班での絆が基盤となつて、殿田小学校では、毎日の学校生活の中で、低学年は、休み時間に高学年に遊んでもらったり、うまく思いが伝わらなくて友達と気持ちがいずれ違つて

いるときに、高学年に話を聞いて解決してもらったりします。

**こ** のようにして、自分が大切にされていることを実感したり、高学年の頼もしい姿を間近に見て過ごしたりすると、やがて高学年になったときに、今度は自分が低学年の児童を気にかけて、班をリードしたりまとめたりするようになっていくます。

**こ** れからも、地域や保護者の方々とともに、異年齢集団で育まれる良さを生かして、一人一人が大切にされる学校を目指して、日々、人権教育の充実に努めていきたいと考えています。



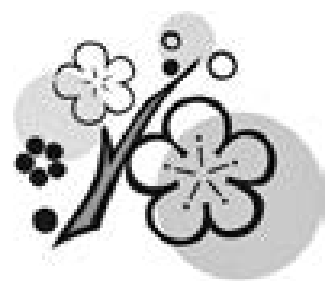
▲全校ハイキング先の広場でドッジボールを楽しむ児童ら

(殿田小学校)

人権教育主任

人羅 秀子

## ふ・れ・あ・い



—第29回—

### 自死遺族の人権

身近な人を亡くすことは、とても悲しく、苦しい体験です。特に自殺(以下「自死」)で亡くなった場合、突然の死であることのショックや自死を止められなかったという自責の念など、遺族の苦しみは計り知れません。さらに、自死に関する社会の偏見や周囲の誤解などによって、自死で家族を亡くしたことを周囲に話せず、一人で苦しみ、孤立してしまつ方も少なくありません。

政府が推進すべき自死対策の指針として策定された「自殺総合対策大綱」では、自死遺族などに対する支援の取り組みの重要性が言及されています。また、多くの自死は個人の問題ではなく、その対策は社会全体で取り組む必要が

あります。

自死対策のための知識や遺族の心情への理解を深めることで、人がその死の在り方によって差別されることのない社会、併せて、これ以上苦しむ方が増えないような誰も自死に追い込まれない社会づくりが求められます。

毎年3月1日は「京都のちのちの日」です。自らの命を見つめ直すとともに、周りの人にも思いをはせ、共に生きるこのの意味や絆の大切さについて、今一度立ち止まって考えてみませんか。

(人権政策課)

### 自殺・自死遺族の相談は

京都府自殺ストップセンター

ナビダイヤル(電話)

なやみなくなる  
0570-783-797

月～金(年末年始祝日除く)

午前9時から午後8時まで